

○議長（小林哲雄）

日程第2 一般質問を行います。質問の順番は通告順に行いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」という者多数）

○議長（小林哲雄）

ご異議なしと認めます。よって、一般質問は通告順に行うことに決まりました。それでは、一般質問に入りますが、質問、答弁は簡潔にお願いいたします。

11番、井上宜久議員、どうぞ。

○11番（井上宜久）

皆さん、おはようございます。11番、井上宜久です。

通告どおり町長に1期目の総括と今後の出处進退の考えについて、1項目の質問を行います。

平成23年4月24日、13年ぶりに町長選が実施され、府川新町長が誕生した。その任期も来年4月に迫っています。町長の就任約2カ月前には想像を絶する東日本大震災、原子力発電事故に見舞われ、全国民挙げての一日も早い復旧・復興が待たれましたが、いまだ復興についてはほど遠く、諸課題が積み残されています。

町では、町民の皆さんが待ち望んでいた足柄紫水大橋がこの4月に開通し、南部土地区画整理事業も工事が完了し、新しい家が建ち始めている状況です。また、数年前から進められていた開成小学校の大規模改修工事、大型公園整備も完了した。広域行政事業は、消防業務が小田原市へ業務委託され、広域斎場問題も平成30年の供用を目指し準備が進められている。

府川町長は所信表明で、残された第四次総合計画事業は確実に実施しながら、町の20年、30年先の目指すべき姿を見据えたまちづくりを進める、具体的には、行政運営の基本運営は町民目線で行動し、行財政運営は中・長期の財政見通しの上で優先順位を立てて計画的に進め、その目標に向かっては五つの政策ビジョン、三つの戦略的プロジェクト、三つの検討課題を掲げてまちづくりを進めることを所信表明されました。

そこで、1期目の全体的な総括と出处進退を含め、今後に向けた考えを伺います。具体的には、一つとして1期6カ月を残しているが全体的な総括について、二つ目は広域行政について、三つ目は今後の出处進退について、四つ目は、3項目に関連するが、今後のまちづくりの基本的スタンスは、五つ目は、これも3項目目に関連するが、合併についての町長の基本的な考えについて伺います。

以上5項目、よろしく願いをいたします。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

皆さん、おはようございます。今日は傍聴者が大分多いようで、6月の日曜議会に次いで皆さんが議会に対して関心があるということで大変うれしく思いますし、

今、宜久議員から質問がありましたけれども、町長は次、2期目、どうするのだという関心が皆さんにあるのかなと思っていますので、順に宜久議員の質問にお答えしますけれども、まず初めに2期目、私は、はっきり挑戦をさせていただくということで、出馬表明を先にさせていただきたいなと思います。

開成町は今、人口増加率でも合計特殊出生率でも神奈川県内でトップクラス、今年足柄紫水大橋も開通し中央通も開通したと、大きく開成町は外からも元気な開成町というふうに言われています。また、開成町の皆さんも、そういうふうに誇りを持っておられると思います。そして、南部地区の土地区画整理事業も、もうすぐ終わるという中で、開成町の今後に対して、もっともっと元気な開成町にしていきたいと思っています。

開成町の将来について、町民の皆さんに1年かけてワークショップという形で将来像を提案していただきました。それをもとに役場の職員が全員で、開成町の明るい未来に向けて、どのような具体的施策をやったらいいかということで第五次総合計画をつくらせていただきました。これは、議会の皆さんのご協力も得て、承認も得て、昨年から第五次総合計画がスタートいたしました。その総合計画にのっとり、この2年やってきましたし、今後、この総合計画にのっとり開成町をもっともっと元気な町にしていきたいと思っていますので、2期目を目指してこれからも頑張っていきたいと先に宣言をさせていただきます。

それでは、順次、井上議員のご質問にお答えをしたいと思います。

一つ目の1期目の全体的な総括ということですが、就任当初、第四次総合計画を確実に実行しながら、町の20年、30年先の目指す姿を見据えたまちづくりを進めてきました。そして、足柄紫水大橋や開成中央通の開通などの南部のまちづくり、それが最も最たるものであると思っています。皆さん方に、広報4月号、覚えておられますか、町の将来図、パース図をお知らせさせていただきましたけれども、このように開成町を、どこかほっとするような、水と緑に囲まれた開成町らしいまちづくりを今後も展開していきたいと考えております。このまちづくりをさらに進めるために、第五次総合計画を策定させていただきました。町民の皆さんと行政と一緒に策定をし、「明るい未来に向けて人と自然が輝くまち・開成」、これが開成町の将来像です。この実現に向け、いつまでも住み続けたいと思っていただけの町にするための計画ができたと思っています。

それでは、これまでの取り組みについて振り返ることで総括としたいと思います。

マニフェストの成果について、これから述べさせていただきますけれども、五つの戦略ビジョンを掲げさせていただきました。一つ目が、より豊かな教育の町をつくり出すということです。開成南小学校の施設との不均衡を是正するため、3年をかけて開成小学校を大規模改修いたします。また、コミュニティースクールの導入、のびのび子育てルームの拡充、学力向上支援や学校ボランティアといった外部指導者の活用などの事業を実施しております。

このコミュニティースクールという言葉、耳なれない言葉だと思いますけれども、

実は大変なことを開成町はやっているとは思っています。学校運営に対して地域の人たちの声をちゃんと届けることのできる仕組み、それがコミュニティースクールであります。これを導入しているのは、神奈川県でも横浜と川崎と開成町だけです。学校に対して地域の人たちのきちんと目が入っていけるような仕組み、これは自慢できることですので、これからもぜひ広げていきたいなと思っています。

二つ目は、より災害に強い町をつくりますということです。かけがえのない町民の皆さんの命を守るために、町長就任後、すぐに危機管理担当課長の設置と防災専門員、この増員をいたしました。人的な充実を図ったと。その上で、東日本大震災のちょうど1年後、平成24年3月11日に開成町で初めて浸水想定避難訓練を実施もいたしました。また、先日の町防災訓練を見ていただければわかると思いますけれども、中学生の全生徒が町防災訓練に参加をしていただくこともできるようになりました。

また、北海道幕別町と災害時の相互応援に関する協定も結ばせていただきました。さらに、浸水時の一時避難場所の対応として県の施設、また民間団体、全部で6団体、パナック工業さんやエスパックさん、富士の先進研究所さんなどと一時避難所の協定を結ばせていただくことができしております。そのほかにも地域防災計画の改定、地域集会施設の耐震補強、酒匂川流域の関係市・町による情報伝達体制の確立、自治会と連携した災害時要援護者対策も進めております。

三つ目、町民が主役の町をつくりますということです。自治会活動が活発であるという開成町の特色を生かして、住民が主役のまちづくりを進めております。あじさいの町開成自治基本条例の具体的な行動指針として、協働推進計画を策定いたしました。この計画を地域に浸透させるために、自治会関係者を対象にしましたけれども、協働推進計画シンポジウムも開催させていただきました。また、さらに町民活動応援事業、10万円を限度にしての補助事業でありますけれども、町民の皆さんの自主的・自発的な公益活動も支援をしております。

そして、四つ目、より美しい町をつくります。木や森の大切さを広く発信するために、かいせい平成の杜づくり事業として、宮脇先生の講演会や植樹祭を子どもたちや関係住民団体と一緒に開成南小学校横の公園のところで実施をいたしました。また、中家村公園や松ノ木河原公園を開成町緑の基本計画に基づき街区公園として整備もいたしました。南部地区では、開発の振興に伴って無秩序な景観が生じないように、地区計画を定めるなどの誘導策も実施をいたしました。

最後の五つ目のビジョン、より健やかな町をつくります。今年、町民のスポーツへの参加率を競うイベントであるチャレンジデーに初めて参加をいたしました。61.6%という高い参加率で金メダルを獲得するとともに、対戦相手、北海道幕別町にも勝利をいたしました。つい先日、東京に行って、その金メダルをいただいてきました。役場へ入って真正面の入り口、自治活動応援課のところにそれが飾ってありますので、ぜひ見ていただければなと思います。今後も、町民の皆さんの健康づくりのきっかけになると、このチャレンジデーは考えております。

また、健康増進計画を策定し、この計画を町民の皆さんに浸透させるために学校や企業との連携も進めて、初めて一緒に食育講座を開催するなどの取り組みも行っております。高齢者保健福祉計画を策定し、社会福祉協議会への地域包括支援センターの事業の委託も実施をいたしました。このほかにも各種がん検診等、受診率向上を目指し無料クーポンによる検診の導入もいたしております。

マニフェストの重点プロジェクトは三つあります。北部地域の振興と農・商・工連携で産業の活性化に努めると、二つ目が地球と環境に優しいまちづくりをさらに推進します、三つ目、南部地区の新市街地整備をさらに進めますという重点プロジェクトについては、その成果として開成ブランドを創設し、弥一芋を初めとする11の産品を認定しております。また、防犯灯の全町LED化、今、これは順次行っております。9月中に全部のLED化が完了する予定であります。また、小水力発電装置、これは3月までに開成あじさい公園の舞台棟の前に設置をする予定で、今、準備を進めております。また、南部の市街地の整備については現在進行中であります。結果が目に見える形であらわれつつあると思っております。このほかにも駅前朝市をマルシェ・かいせいとして構成団体の自主的な運営への移行を支援し、南部と北部、農業と商業の交流連携や地産地消の結束点として育成もしております。

また、マニフェストの検討課題、これも三つ挙げました。円滑な行政運営に努めます、二つ目が健全な財政運営に努めます、三つ目、広域連携の強化に努めますということであります。第五次総合計画について、ワークショップ形式によって町民の積極的な参加を促し策定をいたしました。また、円滑な行政運営に資するために第五次行政改革大綱を策定しており、行政機能のよりどころとなる役場庁舎の建てかえについても検討も今、始めております。

私のマニフェスト、4年間の達成状況、見通しについて、これは12月までにきちんとまとめ、対外的な調整をまとめて皆さん方にお示しをしていきたいと思っております。達成状況、どのぐらいいったのかというのは、詳しく12月にまとめさせていただきます。そういった中で、現状時点においては、対外的な調整を要するもの以外、大方達成したと考えております。これまでの私自身のマニフェストの取り組みに際して、議員各位からも一般質問や決算審議などでさまざまなご提案やご提言をいただく中で、町民の皆さんにとって質の高いサービスを提供できるものとなりました。改めて感謝を申し上げます。

次に、二つ目の広域行政について、お答えをいたします。町を取り巻く環境が目まぐるしく変化をしている中、行政課題は複雑かつ高度化している現状にあります。その中で、町が単独で行っていくことが困難な課題も多くあります。また、町民サービスの向上を図り効率的な行財政運営を進めていく上でも、さまざまな分野で広域的な連携を図っていく必要に迫られております。特に、国においては地域の消滅や東京一極集中の解消なども取り沙汰されており、地域創生に力を入れるという方向性も打ち出されております。町の活性化を継続していくためにも地域の活性化のためにも、今、何をすべきかを問われていることの認識をきちんとしております。

これまで消防の広域化、広域の斎場、あるいはごみ処理の広域化などについて検討し、成果を上げてきましたが、今後も広域連携の強化を図っていく必要があると考えております。広域行政については、三つの分野で展開していく方針を掲げております。

一つは、県西地域内における広域行政。地域内の市・町の間で連携し事業を展開することによって効果が高まる案件については、共同して調査研究を行い実現の可能性を探っていきます。また、事務の効率化を目的とした共同処理や公共施設の相互利用も進めていく必要があると考えており、県西地域で最も元気な自治体である開成町がリード・オフ・マンとして牽引していく必要があるとも考えております。

二つ目、県域を超えた広域行政の推進。酒匂川の水害対策やスカイネットワークによる防災や観光の取り組みなどが既に進められておりますが、富士山の世界文化遺産登録や平成32年開催予定の東京オリンピック・パラリンピックを見据えて、県を超えた連携をさらに進めていく必要があります。

三つ目、町独自の都市間交流の推進。既に、災害時相互応援協定を締結した北海道幕別町とは行政レベルでの交流を進めております。これを住民レベルの相互交流に拡大していくとともに、さらに交流先を見つけていきたいと考えております。

質問の三つ目、今後の出処進退について。

初めに述べさせていただきましたけれども、1期目では第四次総合計画の残された事業を確実に実施し、また今後のまちづくりの大方針としての第五次総合計画を策定いたしました。これは、言うなればホップ・ステップ・ジャンプのステップまでであり、これから大きく飛躍をさせなければならないと考えております。来年2月に町は町制施行60周年を迎えます。60周年を町の新たなスタートとして位置づけをしておりますが、今後、これを開花させるのは、これまで環境を整えてきた私の責務であると認識をしております。

これまで、「日本一元気・きれい・健康な町」を目標に掲げ、町政を運営してきました。開成町は、この夏、各種スポーツ大会においてもすばらしい結果を今、残しております。日々元気な開成町になっていると町民の皆さんにも実感していただけるような出来事が数多くあります。これを、もっともっと元気な町にするために今後も誠心誠意頑張っていくつもりでありますので、よろしく願いいたします。

四つ目の質問、今後のまちづくりの基本スタンスについてお答えをいたします。まちづくりの大方針である第五次総合計画の推進を原則に、まちづくりの目標としている「日本一元気・きれい・健康な町」を一層進めていくために、次の三つの戦略プランと三つの地域ビジョンに取り組んでいきたいと考えております。

戦略プランの一つ目、子どもが元気なまちづくり。0歳から始める子育て支援策の充実化に力を入れ、町の宝である子どもたちをみんなで育てていきたいと考えております。二つ目は、暮らしやすく、きれいなまちづくり。交通手段の確保を進めつつ発展的なエネルギー施策の展開や、水と緑が豊かな町の環境の保全を図ることで、潤いと利便性を兼ね備えた住環境を創出していきたいと考えております。三つ

目は、皆さんが生き生きと健康なまちづくりをしていきたいと思っております。住民の皆様が生きがいとやりがいのある日常生活を送るために、人生90年時代を健康で暮らせる環境づくりを推進していきたいと思っております。

この三つの戦略プランに乗って、北部は農業の再生と六次産業化のモデル地域、中部は文化・コミュニティーの拠点と暮らしやすい地域、南部は県西地域の副次拠点として魅力ある地域にと、これまでの先人の皆さんが行ってきたまちづくりの土地の利用について継承しつつ発展する形で地域ビジョンと考えていきたいと思っております。幸い、開成町は日本創成会議が示した消滅可能都市にはなっておりませんが、楽観視することなく、持続可能なまちづくりを心がけて、第五次総合計画の基本姿勢である住民がいつまでも住み続けたいと思える町、日本一元気な町開成町の実現のために、誠心誠意、町政運営に汗を流していきたいと考えております。

最後のご質問、合併について町長の基本的な考えについて、お答えをさせていただきます。

合併については、平成22年3月に県西地域合併検討会において、2市8町が足並みをそろえて直ちに任意合併協議会を設立することは困難であるとの判断から、検討を終息しております。その後、設立された神奈川県西部広域行政協議会でも、合併についての議論はされておられません。一方で、国の第三十次地方制度調査会答申を受け、今年5月30日に公布された改正地方自治法に基づき小田原市が中核市指定を目指す、そのように伺っております。道州制法案の国会提出などの状況も踏まえ、足柄上地区1市5町としても今後の広域行政のあり方について、再度、調査・検討を行うということを決意いたしております。

現状では、県西部の資源や潜在力を最大限に発揮し活力ある地域とするために、合併などの手段によって地域の一体化を図っていく必要があるという認識は、いずれの市・町・村も持っておりますが、直ちに合併を検討するという機運は薄いと判断しております。合併は目的ではなく、あくまでも手段の一つであります。国や県、小田原市の動向を十分注視しながら、地域の将来について、ほかの市・町と十分な意見交換を行っていくつもりであります。また、合併は行政主導ではなく、町民の皆さんや町議会の判断が基本と考えております。それらを総合的に踏まえた上で結論を出していきたいと考えております。

以上であります。よろしくお願いたします。

○議長（小林哲雄）

井上議員。

○11番（井上宜久）

ただいま、町長に就任されてから約3年6カ月の間に取り組み行政運営について総括され、また、任期満了後の出処進退については、これからのまちづくりの指針が示されて、引き続き行政運営のかじ取りを行う決意が明確に述べられました。総括と今後に向けての指針については、幅広く具体的に丁寧に答弁をいただきましたので、あえて、ここで私が意見を申し上げるものではありませんけれども、幾つ

かの私の希望を述べ、町長の所見をいただければというふうに私は思います。

それでは、総括の中で、まず1点、五つの戦略ビジョンについての成果が述べられました。達成状況の見通しについては12月にまとめられるということでありま  
すけれども、現時点で、もう少し強力にこういうことを進めたかったよというか、  
取り組みの反省ですね、そういう課題があれば、何点かを挙げていただきたいと思  
います。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

先ほどお話ししましたけれども、大方達成はできているのかなというふうに考え  
ておりますけれども、やはり一番大きいのは町長に就任して3. 11があったとい  
うことで、防災に対しては最優先の課題として取り組んできておりますし、そうい  
う中で浸水訓練も初めてさせていただきました。今、一番、災害に対して重要な  
のは、命にかかわる大事な情報をきちんと全町民の皆さんに届けなくては行けないと。  
そのための手段として今年の防災ラジオや、また、テレホンサービスで防災無線が  
聞きにくい方には聞いていただくと。また、携帯メールで、テレビを使って文字情  
報として、いろいろな手段を今回、取り組みもさせていただきました。

さらに大事なのは、住民の皆さんに避難勧告や避難指示といった意味、それが出  
されたとき、どういう行動をしなければいけないかということがすごく大事なこ  
だと思っています。その点において、実際的な訓練はやりましたけれども、まだま  
だきめ細かさが足りないのかなと思っている部分はあります。今後においては、町  
の中だけの訓練ではなくて、これからは広域的に地続きである例えば南足柄。また  
は、広島の今回の災害を見たときに、山崩れ、開成町は山がないからいいのかとい  
うわけにはいかないと思います。隣町の、もし松田の山が崩れて酒匂川を塞いだら、  
そのときは開成町に水があふれ出てくる可能性もあるということを考えると、広域  
的な問題として捉えて、また、広域的な合同的な訓練もこれから考えていかなけれ  
ばならないかなというふうに考えております。

さらに、まちづくりの中で開成町を元気にしていくというふうに考えたときに、  
人口が伸びたり南部に人が来ていただくということも大事なのですけれども、やは  
り、今、住んでいる開成町の人、町民の皆さんが元気であるということがすごく  
大事だと思います。そのときに、元気をどのようなときに感じていただけるかと考  
えたときに、私も自治会長をさせていただきましたけれども、各自治会の活動に積極  
的に参加をしていただくと。そのときに、自治会加入率という話を自治会長会議  
でも出させていただきますけれども、自治会加入率100%を目指そうというふうな  
ことを掲げさせていただいております。なかなか具体的に打ち出せない部分があ  
つて。

また、さらに、その前段として子ども会の加入率の問題、これも何とかしないと。  
開成町を元気な子どもの声が聞こえる町にしていくためには、開成町の子どもは開

成町の人たちが全員で育てるというふうな形にしていくためには、やはり子ども会の加入。また、子ども会が自治会に対して、どのような自治会で対応をしていただけることができるかというのが具体的対策として打ち出すことができなかつたということは、私、大きな反省も含めて残っておりますので、この点については次の中でできちんと具体的に進めて。

開成町の町民の皆さんも外から移り住んでいただける皆さんも、自治会に入って地域のまちづくりに一緒に参加してもらえるような、そういう雰囲気のある、みんなと一緒にやっていく町なのだよと、元気なまちづくりは移り住んでくる人も含めて、みんなでやっていくのだというふうなものに持っていきたいと考えております。

以上です。

○議長（小林哲雄）

井上議員。

○11番（井上宜久）

今、町長のほうから答弁で、自治会の加入率、それと子ども会の加入率という問題が出されました。それと、今、消防関係では広域連携ということで出されたということです。自治会の加入、子ども会の加入、この辺については協働のまちづくりをする上では非常に大切だということになりますので、これは町長、あるいは町の職員でできる問題ではありませんので、自治会の応援を得る中で、ぜひ、この辺は加入率のアップという形では進めていただきたいなというふうに思います。

それと、消防問題でも広域化という問題が出されました。前回、私の一般質問でも、これからは南足柄との広域連携を図っていくのだというようなことを具体的に述べられていましたけれども、消防、防災関係については非常に町民の命を守る上で大切なことですので、ぜひ、引き続き力を入れていただきたいというふうに思いますけれども。

ここで1点、お聞きしたいことは、町長に就任される2カ月前になりますか、東日本大震災、それと原子力発電事故に見舞われて、全国各自治体では防災関係の抜本的な取り組みに迫られたわけにありますけれども、町長は被災地の視察もされました。そして、町の地震発生の切迫性、それと酒匂川氾濫の危険性を重く受けとめて、いち早く、答弁にもありましたけれども、危機管理課長の設置、あるいは防災専門員の増員というようなことが図られましたけれども、この辺については私も評価をするところでありましてけれども、現時点で町長が目指す防災体制、その辺がどのくらいまで達成できているのか。数字的でなくても結構ですので、その辺の現時点の考え方を教えていただきたいと思います。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

防災体制の達成というのは、これ数字的に言うのも、何%なんてなかなか言えな



いというのもあり、多分、終わりのない対策をずっとこれからもしていかななくてはいけないと思っています。先ほど、命にかかわる大事な情報がきちんと全町民に伝わるようにということで、防災ラジオとか、いろいろなことをやってきましたという話をしましたけれども、それが、果たして、やっているのですけれども、町民の皆さんにきちんと伝わっているかどうかと。そのきめ細かさは、きちんとこれからもやっていかななくてはいけないのかなと。

例えば、テレビで文字情報を伝えることはできていますけれども、その見方が全町民の方々にできているのかと、そういうところまできちんとチェックをしないとイケない。また、障害者の皆さんに、そういう情報を正しく伝えることができるメールも取り入れているのですけれども、その体制がきちんと1人1人まで届いているのかと、そういうきめ細かさというのはすごく大事。全町民の皆さんの命を確実に守っていくということは、形ができただけでは多分不十分であると。そういうソフトの部分において、きめ細かく伝わっているかどうかという確認も、これからもいろいろな訓練をしながらやっていく必要があると思っていますので、まだまだ防災に対しては不十分だと思っています。

今、水害の話をさせていただきましたけれども、今は富士山の噴火。10月に神奈川県、山梨、静岡と合同の訓練も今年初めて合同庁舎で、県西土木事務所で行いますけれども、いろいろな災害の対応について、あらゆる災害の対応について、これも検討して、また、いろいろな町民の皆さんと一緒に考えて、どうしたらいいかと。行政だけではなくて、町民の皆さんも自分たちのこととして捉えて自分たちができることをきちんとやっていただけるような促しもしていかななくてはいけないということで、まだまだ災害の防災に対しては、やるべきことがたくさん残っているなというふうに考えております。

○議長（小林哲雄）

井上議員。

○11番（井上宜久）

わかりました。ビジョンの達成状況については12月にまとめられるということですので、その辺の防災状況も含めて達成度のまとめをしていただきたいと思いますというふうに思います。

もう1点、総括の中でお聞きしたいのは広域行政についてでありますけれども、消防については既に小田原への業務委託が昨年終わっています。広域斎場の問題についても、ようやく、いろいろありましたけれども、最終的に平成30年供用という形で、今、検討が進んでいるところでありますけれども、私が少し心配しているのは、ごみの処理の問題であります。たしか、平成10年10月に神奈川県のごみ処理広域化計画というのが出たと思います。足柄地域1市5町で22年の稼働を目標に、いろいろ検討されたというふうに記憶しています。

ただ、その後、エコループ問題が発生しまして、その検討がストップしたということで、その後、エコループ問題が頓挫してから、平成18年度からだと思います

けれども、再度、課長レベルによる検討がされていると聞いていますので、どのくらいのレベルで検討が進んでいるのかどうかということも含めて、今現在、ごみの広域化ということで、どういう状況になっているのか、その辺を含めてお聞きしたいのですけれども。

あわせて、近隣の町長がこの7月に無投票で当選されました。その町長が、広域行政を強力に進めていきたいということで述べられています。そういう広域行政を進めていくよということでもありますけれども、その辺のごみの処理の問題等で、うちの町長と、あるいは、この近隣の東部の清掃組合の組長さん等の中で話し合いが進んでいるのか、その辺の状況を、できれば報告していただきたいと思います。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

今、言われたように、1市5町で清掃の工場が大井と松田と中井で1カ所、開成と山北で1カ所、南で1カ所、3カ所の焼却施設を持っていますけれども、将来、これを一つにして1市5町でやっていきたいということで、準備は当時していたのですけれども、山北の、今、言われたようにエコループの関係で、それで頓挫し、大分あいてしまいましたけれども、平成23年の末に執行者会議、1市5町の首長の中で、これはやはりもう一度再開をしていかななくてはいけないだろうと。いつにという期間まで確認は、まだ、そのとき、できていませんけれども、23年の末にもう一度準備会を発足させよう。そういう中で、24年度に、そのための準備をし、25年度に南足柄市に準備室を設けて、今、将来、1市5町、また施設だけではなくて最終処分場の問題もありますので、そういうものに絡めていろいろな調査をしながら進んでおります。

26年度は、今、三つの施設を1カ所に、どこかにつくるとなった場合の候補地の選定をしているところであります。その中で、これから将来、どの場所に、いつというのは、これから結果が出てくると思いますけれども、今の状況では、そういう中できちんと1市5町の中で進めていくという首長会議の中の決定もされており、また準備室もできて、今、進めているというのが実態であります。

山北の町長が言われたのは、具体的に、ごみの広域化の話だけでは私はないと思っています。5町の首長会議の中でも、いろいろな議論の中で、例えば、松田の文化センターがもう老朽化しているので、では、どうするのかと。松田単独で、これをつくるのがもう一度できるのかと。なかなか、それは難しい。1市5町を見たときに、1,000人規模の施設があるのは、南足柄に文化センターがあります。ほかの町は、大体四、五百人の施設を持っているのですけれども、そうなったときに、松田が単独でつけれないなら、では、どうするのかという議論もこれからしていかななくてはならない。

こういう問題も広域的な課題として、これからやっていく。大きな施設、特に。1市5町の中で一つ、南があれば、では、それを皆さんで維持管理の中で少しずつ

負担をしながら運営をしていくということも考えられるし。また、大きな運動施設が必要な場合は、どこにあるので、それをみんなで使いながらという。各町単独でそれぞれ大きな施設を持つ時代ではないので、そういうものを含めて広域の中で考えていく課題が大きく、これから、ごみとかし尿だけではなくて、出てくるのではないかという議論は今、首長の中でしつとあります。

以上です。

○議長（小林哲雄）

井上議員。

○11番（井上宜久）

わかりました。大分進んでいるなという感じがしたのですけれども、やはり、今、とりあえず広域行政で取り組んでいただきたいというのは、ごみの処理の問題だというふうに私も思っていますので、現在、町長も答弁されましたけれども、南足柄の施設も相当老朽化しているというようなことも聞いていますし、これは上郡の近々の問題かなというふうに思いますので、ぜひ強力に進めていただきたいなというふうに思います。

総括はそのくらいにして、あとは今後のまちづくりの基本的スタンスについて何点かお聞きしたいと思います。

まず一つは、まちづくりの目標として日本一元気・きれい・健康なまちづくりを進めていくということで、先ほど三つの戦略プラン、そして地域ビジョンというのが答弁されましたけれども、もう一つ、その中身というのがちょっと不足しているかなというふうに思いました。各戦略、1、2、3の中身でなくても結構ですので、大枠の中での戦略プランの中身を、できたら説明をしていただきたいというふうに思います。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

今の質問に対して、今、皆さんにわかりやすいように、このような資料を急遽添付をさせていただきました。この三つの戦略プラン、昨年からの第五次総合計画がスタートして、一つのスローガンとして日本一元気ときれいと健康という中で進めていきたいと。26年度の予算も、それに沿って皆さん方にもお話をさせていただきましたと思いますけれども、これからは同じような形で今回挙げさせていただきました。子どもが元気なまちづくり、暮らしやすい、きれい、皆さんが健康と、このキーワードの中で持っていく。

具体的に少し話をさせていただければ、子どもが元気ということで、つい9月1日に役場の前にファミリーサポートセンターが開設をいたしました。このような形で、子どもをキーワードに元気な町にしていく。また、南部地区に二十歳から39歳の若い世帯の皆さんに移り住んでもらうということが開成町の将来にとって大変重要なことですので、子育て支援を充実させるためには、それ以外にも、も

う総合計画の個別計画の中にもたしか載せてあると思うのですがけれども、常設型の広場の子育て支援センターをつくるということも必要であろうし。

二つ目の暮らしやすくきれいということで、これは便利さ。いろいろ町内の中のまちづくり集会の中でも出ている足の問題、交通の問題が出ておりますので、こういう解消もきちんとしていかなければいけない。また、きれいということでいけば、クリーンということで小水力発電装置も3月には設置をさせていただきますけれども、やはり今回、役場庁舎建設という大きな問題、課題も一つありますので、できればゼロエネルギー、今まで使っていたエネルギーがゼロで済むような新しい庁舎ができたらいいなというふうな夢もあると思います。

皆さんが生き生きと健康ということで、今回、少し考えさせていただいているのは、県から県西地域は未病というキーワードで知事が発表させていただきました。そのときに、地域活性化の中で予算が組まれた中で、県に対してプレゼン、開成町は未病に関して、こういう施策をやっていききたいというプレゼンをさせていただきました。その中で、運動の駅。

水辺スポーツ公園を運動の駅と捉えて、ここに、今、パークゴルフ場だけで8万人以上の利用者がいます、全体では12万人、水辺スポーツ公園を利用されている方がいますので、そのいろいろな健康データをとれたら、すごいビッグデータとして今後活用できるのではないかと。または、ここに、茅ヶ崎の湘南ベルマーレのコンディショニングセンターも見学をさせていただきましたけれども、1人1人きめ細かなそれぞれに合った運動管理をやっていく施設もあったり。また、今、サイクリングコースが小田原、開成、南、県があるサイクルコースを移管の動きで出ておりますので、きちんと整備をさせていただいた中で開成町としても移管を受ければ、これをもっともっと活用できる拠点とできるのではないかというような考えもあります。

いろいろな夢があるのですがけれども、今、具体的に全部をお話しできるわけではありませんけれども、戦略プランとしては元気、きれい、健康をキーワードに考えていきたい。そういった中で、それぞれの地域ビジョン、北部の問題、中部の問題、南部の問題、これはそれぞれ今年度も出させていただいておりますけれども、菊川議員の質問の中でも出ておりますけれども、北部をどうするのだという中で、この3月でしたか、地域活性化の懇話会をつくっていただいて提言をいただきました。町の広報5月号に、北部のイメージ図ではないですがけれども、こういうふうにしたらどうかというふうなものも提言をいただきましたので、それを今度は具体的にきちんと進めていくと。例えば、北部地域の特産品を加工して、また、それを売る場所、また、それを使った農家レストランというものを提案されておりますので、それを具現化していくというのがすごく北部地域については大事だと思います。

中部地域においては、やはり庁舎建設の問題が一番にありますので、ここを基本に考えていくと。南部についても、区画整理がある程度終わりますけれども、これが完成ではなくて、駅をおりていただくとわかりますけれども、駅前通り線が今、

信号でとまっていると。これを区画整理の26ヘクタールとつなぐという、その駅前通り線の区画整理事業もきちんとやっていかないと完成にはなりませんので、そういう意味も含めて、北部、中部、南部、バランスをとりながら今後もやっていきたいと考えております。

以上です。

○議長（小林哲雄）

井上議員。

○11番（井上宜久）

わかりました。今日、この三つの戦略プランという資料をいただきました。ただ、これだけのプラン1、プラン2、プラン3だけを見ても、なかなか理解できないというところがありますし、今、具体的な策についてお聞きしましたけれども、非常に現実的な施策だなというふうに思いますので、そういった中身については、できるだけ早く実現してほしいというのが僕個人的な考え方ですけれども。今後、こういった具体的な戦略についての中身については、この辺はやはり町民に具体的に示していくべきではないかなというふうに思いますので、ぜひ、お願いしたいと思います。

それと、もう一つ、三つの戦略プランと地域のビジョンを打ち出されたのですが、平成25年度からスタートした第五次の総合計画、この辺の中身の関連性がどうなっているのかと、その辺がちょっと心配でありますので、その辺も考え方を、実態を教えてください。

○議長（小林哲雄）

町長。

○町長（府川裕一）

基本の基本は、やはり第五次総合計画をつくらせていただいて、それに沿って進めるというのが基本です。その中で、前期基本計画ということで6年間の基本計画をつくらせていただきました。その下に3年ごとの実施計画ということで、具体的に予算まで含めて、この3年間の部分、お示しをさせていただいております。その中には、あわせて、初年度ということで6年間分を、ある程度、こういう事業をやっていくと。後半の3年間の予算は載せてありませんけれども、その中にやはり3年ごとの見直しを行っていく必要がありますので、そういう中にきちんとこれを位置づけをしていくということで、総合計画から全く外れたものを打ち出すつもりもありませんし、それに沿った中で、具体的に町民の皆さんが喜んでもらえる、また元気になるまちづくりするための施策を織り込んでいくという中で、また、そのときに議会の皆さんに説明をさせていただき、3年の実施計画の中に盛り込んでいくというふうには考えておりますので、全く第五次総合計画と外れたものを打ち出すということはありません。

以上です。

○議長（小林哲雄）

井上議員。

○ 1 1 番（井上宜久）

この辺がちょっと私、心配をしていたところですけども、今の説明を聞いて安心をしました。要は、戦略プランを進めていけば第五次総合計画はオーケーですよと、総合計画を進めていけば戦略プランというのはオーケーですよ、こういった考え方でいいのかなというふうに、今、説明を聞いていて受けました。

あと1点、合併についての基本的な町長の考え方をお聞きしたわけですけども、私も全く同じです。全く、私もそう考えています。昨今、町内外で合併に関する声というのがちらほら聞こえるようになってきたのです。社会情勢の変化だとか自治体の財政難、それと住民のニーズの高度化等によって、近い将来、合併問題というのは避けて通れない時代が来るのではないかなというふうに私も考えています。そういう問題が来たときには前向きに、今、町長が基本的な考え方を述べられましたけれども、その考え方で対応していただくということをぜひお願いをしたいというふうに思います。

いろいろプラン等、ビジョン等、お聞きをしましたけれども、ぜひ、この辺の具体的な中身については、重ねてお願いをしておきますけれども、町民にできるだけ細かい提示をしていただきたいというふうに思います。

時間がまだ8分37秒ありますけれども、以上で終わります。この議場で今後に向けて引き続き行政運営のかじ取りをする決意と立派な指針が示されましたので、これからは町民に向けて力強く希望と夢を与える施策を出していただく、示していただくということをお願いして質問を終わります。ありがとうございました。